

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月10日現在

機関番号：32627

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22510276

研究課題名（和文） 南北アメリカ移民地短詩型文学の発掘保存と社会史的活用に関する
基礎研究研究課題名（英文） A Study on Immigrant Tanka, Haiku, and Senryu in the Americas from
Social History Perspective

研究代表者

桑井 輝子 (KUMEI, Teruko)

白百合女子大学・文学部・教授

研究者番号：60205177

研究成果の概要(和文)：

社会史的視点から、アメリカ合衆国においては、『新世界／新世界朝日』(1906～1940年)、『日米』(1919～1932年)、『北米時事』(1916～1942)、『羅府新報』(1946～1952年)の文芸欄短詩型文学のデータ化、第二次大戦中の司法省管轄抑留所発行の短詩型文学の発掘・データ化、自由律俳句の指導者下山逸蒼の個人書簡閲覧解析を行った。ペルー共和国では、『ペルー新報』(1950～1980年)の短歌作品を収集し、ペルー日本人婦人会文芸部短歌研究会の活動を調査した。

研究成果の概要(英文)：

Tanka, haiku, senryu poems are collected and analyzed in social history perspective from Japanese language newspapers (1906～1952) and from documents written in the WWII internment camps in the U.S. Personal letters from Issu Shimoyama (a leading free haiku poet) to his families (1906～1935) are transcribed. Documents on a tanka group in Peru are collected and analyzed in respect to Japanese language education.

交付決定額

(金額単位:円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |
| 2011年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 2012年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| | | | |
| 総計 | 3,300,000 | 990,000 | 4,290,000 |

研究分野:人文学

科研費の分科・細目:地域研究

キーワード:地域間比較研究、移民地文芸、南北アメリカ、日本人移民、短詩型文学、社会史

1. 研究開始当初の背景

日本人は南北両アメリカ大陸の移民地においても、日本にいたときと同様に、慣れ親しんでき

た短歌、俳句、川柳を数多く残した。読み手の多くは、日本と同様に「庶民」であり、作品には、彼らの生活と心情が詠み込まれている。作品一

一つは31文字、あるいは17文字と極めて短いのであるが、課題が与えられて詠まれることが通例であり、同じテーマの作品が数多く残されている。しかもテーマは、時代の関心事が選ばれている。そのため、集団の生活や心情の記録として、社会史資料としての価値が高いといえる。

しかし日本語世代の減少にともなって、20世紀前半以前に作られた作品、とくに移民一世世代の作品への関心は急速に失われつつある。とくに北米ではこの傾向が強い。一世世代の作品は、二世世代には引き継がれても、三世には引き継がれず、廃棄された事例を数多く見聞した。残された作品を発見・保存・整理し、同人会の活動の歴史を聞き取り調査しなければ、一世の声は永久に失われるという危機感が強まった。

戦前から急速な都市集中と現地化が進行しており、戦後の日本からの移住者も、二世の配偶者として日本から渡航してきた花嫁などごく少数に限られていたペルーの場合には、日系社会そのものが、戦後育ちの二世を中心に、スペイン語を第一言語として成長してきた。このため、戦後にペルーで生活を始めた少数の一世女性が日本語による創作活動を引き継いで来た。しかし、その高齢化によって、実際の創作活動には事実上終止符が打たれ、残された作品の収集、保存、整理が喫緊の課題とされていた。

2. 研究の目的

本研究は

(1) 日本人移民が南北両アメリカ大陸、具体的には北米アメリカ合衆国、南米ペルー共和国で詠んだ短歌、俳句、川柳の作品を、作品集、同人会誌、邦字新聞などを中心に発掘、収集、保存するとともに、そのテキストのデジタル化をすすめる。

(2) 収集した作品を、作者のライフストーリーや置かれた時代状況を背景に分析し、日本人移民のアイデンティティの生成とその変容と、日系人としてのエスニシティの創成を社会史的に考察する(歴史学と文学の融合)。

(3) 南北両アメリカ大陸での創作活動と作品の差異と共通性について比較、分析を行う(地域間比較研究);
という三つの大きな目的を設定した。

3. 研究の方法

(1) 現地聞き取り調査:

アメリカ合衆国ワシントン州シアトル市、タコマ市、カリフォルニア州ロサンゼルス市、サンフランシスコ市、ペルー共和国リマ市の日秘文化会館、ペルー日系人協会、ペルー日系婦人会、短歌同人グループ参加者などの活動の参与観察、同人誌の収集、ライフストーリーについての聞き取り調査を行う。

(2) 作品の収集

同人活動への参加によって得られた人脈から、作品を保存している所蔵者の情報を入手し、作品を閲覧、デジタル保存する。

(3) 日本語新聞通覧

現地日本語新聞文芸欄に掲載されていた短歌、俳句、川柳を収集する。また、文芸欄の記事等から同人活動や読み手の情報を得る。

(4) 収集した作品をデータ化する。キーワード検索化する。

(5) 作品の分析、考察を行う。

4. 研究成果

(1) 保存と発掘

アメリカ合衆国関連では、1920年代から30年代に自由律俳句活動を牽引した下山逸蒼の弟宛書簡を閲覧し、かつデジタル化を遺族に依頼することができた。すでに、内容の一部は論文等で発表しているが、今後は遺族の同意を得て、翻刻と注釈作業を行いたい。

また、ワシントン州ハンズビル市にある一世パイオニア資料館で、下山逸蒼蔵書、強制収容所で作成された工芸品や詩集などを閲覧し、内容の一部を資料として発表した。

下山逸蒼詩碑、直原敏平の碑、本多華芳川柳碑を確認し、訪問について発表した。

シアトルのレニア吟社や北米川柳関係者からは同人が所有してきた句集、ロサンゼルス市川柳関係者、俳句関係者から強制収容所時代に作成された作品や額など、JICA 横浜海外移住資料館に寄贈の仲介を果たすことができた。また、一世が収集した作品の寄贈先を探す手伝いを行った。

参与観察あるいは聞き取り調査した同人会は、アメリカ合衆国ワシントン州では、レニア吟社(俳句)、北米川柳互選会、北米短歌会、サンフランシスコ近郊では、短調文芸会、桑湾川柳会、ロサンゼルス市ではカリフォルニア短歌会、パイオニア川柳会である。

ワシントン州ヤキマ市博物館日系人特別展示準備作業に、資料面で助言を与えた。

ペルー共和国に関しては、ペルー日本人移民史料館架蔵史料、日秘文化会館エレナ・コハツ図書館、ペルー日系人会、ペルー日系婦人会などの所蔵資料の調査を行い、短詩形文芸活動に関する文献、資料などの調査、収集作業を実施し、ペルーで発刊された短歌集を収集した。日系婦人会では、同会の創立時からの議事録などの一次史料の調査を行い、議事録、会計簿についてはそのすべてを写真撮影して収集し、文芸部短歌研究会関連の記事を中心に資料をまとめた。

事実上ペルー日系社会唯一の文芸活動団体であった婦人会文芸部短歌研究会(後に椰子の実短歌会と改称)の参加者への個人インタビューを併せて実施し、同会の活動とその背景についての聞き取りを行うとともに、戦中期の個人的な文芸活動にかかわる資料を発掘し、写真撮影して収集を行った。また、史料とともに、同会より発行された都合六冊の短歌集を収集した。

椰子の実短歌会の指導にあたった、リマ日本人学校の日本人国語教師についての情報も併せて収集することができた。

(2) 日本語新聞文芸欄短詩型文学データ化

アメリカ合衆国では『新世界／新世界朝日』(1906～1940年)、『日米』(1919～1932年)、『北米時事』(1916～1942)、『羅府新報』(1946～1952年)を通覧し、文芸欄から短歌、俳句、川柳を収集、データ化を行った。文芸欄の通覧の結果、これまでの日本人会関係者による移民史の通説を覆す発見が多々あった。

ペルー共和国では、現在も発行が続けられている邦字新聞『ペルー新報』について、ペルー新報社と連絡を取り、国会図書館でマイクロフィルムにより収集した期間以降の刊行分についての所在確認と、収集について協議を行った。将来的にjica横浜海外移住資料館で全巻架蔵し、ホームページでの公開を行うという方向性で調整を進めた。ペルー新報社は、日系社会の文芸活動援助の一環として、その紙面をペルー日本婦人会短歌研究会同人の入選歌の掲載始め、俳句、川柳、琉歌などの発表の場として提供して来ているが、今回は『ペルー新報』(1950～1980年)までを通覧し、文芸活動関連記事を収集し、日系社会の文芸活動全般に関する展開を追うことができた。

(3) 成果発表

[講演および学会発表]:

2010年にはアメリカ学会分科会で、日米の川

柳会の交流について、日本の川柳誌に発表された川柳を用いて、発表した。

2011年にはアメリカ合衆国のアメリカ学会で、戦時交換船による日本からの慰問物資受け取り、および戦後の日本救済物資送出運動について、川柳を題材に分析し、交換船による慰問物資の受け取りが戦後の救援物資送出運動の原動力の一部になったことを論じた。ワシントン大学アメリカエスニック研究学部主宰の「2011年追憶の日」イベントでは、強制収容所で作られた外川明の詩を紹介し、収容所時代の記憶を風化させてはならないと外川明が詩に託したことを、彼の詩を解説しながら講演した。

2012年にはアメリカ俳句協会、川柳について紹介し、かつアメリカの川柳が日本川柳会の北米支部として成長し、やがて戦争中に自立せざるをえなくなり、アメリカ川柳へと発展した経緯を講演した。また、加川文一詩碑保存会では、加川文一の詩を用いて、一世世代の日本とアメリカへの思いを解説し、リトル東京に詩碑が存在する意義を論じた。

いずれにおいても発掘と保存の重要性を論じた。

[論文]:

抑留所で発行された短歌、俳句、川柳の句集、謄写版刷り会誌、および手書きの句会記録を分析し、その内容について抑留所の特殊性を解説しつつ、被抑留者の心情について論考した。また手書き句会記録から上位2点に互選された作品を翻刻した発表した。

下山逸蒼について、『層雲』に掲載された彼の作品および彼に関する記述すべてを収集分析し、『層雲』との関わりに関する従来の説を覆す発見を発表した。また彼の手紙の一部を翻刻し発表した。これらの資料を分析し、具体的に作品に紹介して、移民と故国日本との心的絆とアメリカへの同化について考察した。

いかに排斥が強かろうとも、故郷と母を懐かしく想うとも、アメリカに生活を築かざるを得ない移民の心情と努力について、外川明の作品を通して、論じた。また移民世代とアメリカ市民である二世世代の親子の関係も考察した。

ペルー日系婦人会文芸部短歌研究会の成立から終焉までの軌跡を、戦後の日系社会そのものの変容と、同婦人会の構成員の変化に関係づけ分析するとともに、同会活動の末期においてその活動の中心となって活躍した二世婦人が戦前に受けた日本語教育について、就中、実科女学校における海外の日本語教育としては突出していた日本古典文法教育について明らかにした。同時に、上記のような分析から、戦前における移民一世の階層化とその子女教育の理念の対立についても知見を得ることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

①柳田利夫、「ペルー日系二世の短歌と戦前期の日本語教育」、『JICA 横浜海外移住資料館研究紀要』、査読有、7号、2013、pp21-42

②糸井輝子、「下山逸蒼と『層雲』再考」、『白百合女子大学研究紀要』、査読無、48号、2012、pp35-51

③糸井輝子、「下山逸蒼資料について」、『JICA 横浜海外移住資料館研究紀要』、査読有、6巻、2012、pp46-65

④糸井輝子、「短歌・俳句・川柳が詠むアメリカ収容所—JICA 横浜海外移住資料館所蔵短詩型文学資料紹介」『JICA 横浜海外移住資料館紀要』査読有、5巻、2011、71-89

⑤糸井輝子、「在米日本人『移民地文芸』覚書(7)『大地の市民』—外川明と故郷創成神話」、『白百合女子大学紀要』、査読無、46巻、2010、pp69-91

⑥糸井輝子、「アメリカ合衆国適性外国人抑留所内の短詩型文学覚書」、『白百合女子大学言語・文学研究論集』、査読無、11巻、2011、pp55-69

[学会発表] (計 5 件)

①糸井輝子、「日系日本語文学における加川文一の詩と詩碑の意義」(基調講演)ロサンゼルス市図書館小東京分館加川文一詩の会、2012年3月10日、カリフォルニア州ロサンゼルス市、USA

②糸井輝子、“Evolution of American Senryu”(基調講演), The Haiku Society of America、2012年2月12日、ワシントン州シアトル市、USA

③糸井輝子、“For Overseas Brethren: Bonds of Commodities from Japanese Wartime Relief Goods to U. S. LARA Goods,” Association for Asian American Studies Annual Meeting、2011年5月20日、ルイジアナ州ニューオーリンズ市、USA

④糸井輝子、“Issei Voices: Poems in and outside the Barbed Wires,” Day of

Remembrance 2011, University of Washington American Ethnic Studies Department、2011年2月22日、University of Washington、ワシントン州シアトル市、USA

⑤糸井輝子「アメリカ川柳と日本」第44回アメリカ学会年次大会アジア系アメリカ人研究分科会、大阪大学吹田キャンパス、2010年6月4日

[図書] (計 1 件)

①糸井輝子『『アメリカ文学』のなかの日本人移民文芸』、田村一男編集『英米文学の地平』、金星堂、2012、pp179-197

6. 研究組織

(1)研究代表者

糸井 輝子 (KUMEI, Teruko)
白百合女子大学・文学部・教授
研究者番号:60205177

(2)研究分担者

柳田 利夫 (YANAGIDA, Toshio)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号:40119029

(3)連携研究者

なし